



インベントリ データおよび障害の表示

この章は、次の内容で構成されています。

- [ラックマウント サーバの詳細の表示 \(1 ページ\)](#)
- [ラック マウント サーバの障害の詳細の表示 \(8 ページ\)](#)
- [ラック グループのサマリー レポート \(9 ページ\)](#)
- [サーバ障害に関する電子メールアラート ルールの追加 \(10 ページ\)](#)

ラックマウント サーバの詳細の表示

ラックマウント サーバの詳細（サーバで使用されているメモリ、CPU、PSU など）を表示する場合は、次の手順を実行します。



- (注) **[Rack Groups (ラック グループ)]** を選択し、ラックマウント サーバの詳細を表示する手順を実行することもできます。

始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

手順

- ステップ 1** **[Systems] > [Inventory and Fault Status]** を選択します。
- ステップ 2** **[Rack Groups (ラック グループ)]** を展開し、サーバが含まれているラック グループを選択します。
- ステップ 3** 選択したラック グループのページで、**[Rack Servers]** をクリックします。
- ステップ 4** リストでサーバをダブルクリックしてその詳細を確認するか、リストでサーバを選択し、右端の下矢印をクリックして **[View Details (詳細の表示)]** を選択します。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細を表示できます。

タブ	説明
要約	ラック アカウムの概要。
CPU	サーバで使用されている CPU の詳細。
メモリ	サーバで使用されているメモリの詳細。
[PSUs]	サーバで使用されている電源装置の詳細。 (注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。
[PCI Adapters]	サーバで使用されている PCI アダプタの詳細。
[VIC Adapters]	サーバで使用されている VIC アダプタの詳細。 リストにある任意の VIC アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[External Ethernet Interfaces] や [VM FEXs] などの情報が表示されます。
ネットワーク アダプタ	サーバで使用されているネットワーク アダプタの詳細。 リストされている任意のネットワーク アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[External Ethernet Interfaces] の情報が表示されます。
[Storage Adapters]	サーバで使用されているストレージアダプタの詳細。 リストされているストレージアダプタのいずれかを選択して [View Details (詳細の表示)] をクリックすると、[Controller Info (コントローラ情報)]、[Physical Drives (物理ドライブ)]、[Virtual Drives (仮想ドライブ)] などの情報が表示されます。「SSD のスマート情報の表示 (4 ページ)」を参照してください。
[FlexFlash Adapters]	サーバで使用されている FlexFlash アダプタの詳細。 リストにある任意の FlexFlash アダプタを選択して [View Details] をクリックすると、[Controller Info] や [Physical Drives] などの情報が表示されます。 Cisco IMC Supervisor を旧バージョンからアップグレードしている場合、FlexFlash の詳細をレポートに表示するには [Systems (システム)] > [Physical Accounts (物理アカウント)] > [Rack Accounts (ラック アカウムの)] > [Inventory (インベントリ)] に移動してインベントリを実行するか、定期的なインベントリが実行されるのを待つ必要があります。 (注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。

タブ	説明
コミュニケーション	HTTP、HTTPS、SSH、IPMI Over LAN、NTP、SNMP などのプロトコルの情報。
[Remote Presence]	vKVM、Serial over LAN、vMedia の詳細。
障害 (Fault)	サーバで記録された障害の詳細。
Users	<p>デフォルトグループのユーザーに関する詳細。ユーザーポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーの作成時に設定した強力なパスワードポリシーとパスワード有効期限の詳細も確認できます。ユーザポリシーおよびパスワードの有効期限ポリシーを参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
Cisco IMC ログ	<p>サーバの Cisco IMC ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
システム イベント ログ	<p>サーバ ログの詳細。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>
TPM	TPM インベントリに関する情報。
BIOS	<p>サーバの BIOS 設定とブート順序に関する詳細。</p> <p>サーバを選択して、[View BIOS Settings]、[View Boot Settings]、または [View Boot Order] をクリックしてください。</p>
障害履歴	サーバで発生した障害の履歴情報。
[Tech Support]	<p>ファイル名、宛先タイプ、アップロードのステータスなどのテクニカルサポート ログ ファイルに関する詳細は、[Tech Support] テーブルに表示されます。</p> <p>リモートサーバまたはローカルの Cisco IMC Supervisor アプライアンスへテクニカルサポート ログ ファイルをエクスポートするオプションがあります。エクスポートの詳細については、リモートサーバへのテクニカルサポート データのエクスポートを参照してください。</p> <p>(注) Cisco UCS S3260 高密度ストレージラック サーバには適用されません。</p>

タブ	説明
ホスト イメージ	<p>イメージの詳細（名前、サイズ、MD5 チェックサム、最終変更時刻、イメージがマップされているかどうかなど）が表示されます。イメージを選択し、[Map Image (イメージのマッピング)]、[Unmap Image (イメージのマップ解除)]、または [Delete Image (イメージの削除)] を選択して、それぞれのアクションを実行できます。</p> <p>(注) ホスト イメージ マッピングは、E シリーズ サーバにのみ適用できます。</p>
[Associated Hardware Profiles]	ハードウェア プロファイルに関連付けられているポリシーの詳細。

ステップ 5 右端の **[Back]** ボタンをクリックして前のウィンドウに戻ります。

SSD のスマート情報の表示

ストレージ コントローラの下にソリッドステート ドライブ (SSD) のスマート情報を表示するには、次の手順を実行します。

始める前に

サーバがラック アカウントとしてラック グループに追加されていることを確認します。

手順

ステップ 1 **[Systems] > [Inventory and Fault Status]** を選択します。

ステップ 2 **[Rack Groups (ラック グループ)]** を展開し、SSD ドライブが含まれているラック グループを選択します。

ステップ 3 選択したラック グループのページで、**[Rack Servers]** をクリックします。

(注) また、**[Rack Groups]** で、サブ グループを選択することもできます。

ステップ 4 リストに SSD が含まれているサーバをダブルクリックします。

ステップ 5 **[Rack Server (ラック サーバ)]** ページで **[Storage Adapters (ストレージ アダプタ)]** をクリックします。

ステップ 6 SSD ドライブをダブルクリックし、**[Controller Info (コントローラ情報)]** をクリックします。

次のコントローラ設定を使用できます。

- SMART でのコピーバックの有効化
- SMART エラーでの SSD へのコピーバックの有効化

ステップ7 SSD ドライブをダブルクリックし、**[Physical Drives (物理ドライブ)]** をクリックします。

ステップ8 SSD 物理ドライブをダブルクリックし、**[View Smart Information (スマート情報の表示)]** をクリックします。

SSD ドライブに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
[Power Cycle Count (電源の再投入回数)] フィールド	製造された時点からドライブの電源が再投入された回数。
[Power on Hours] フィールド	ドライブが「電源オン」モードにある時間の合計数。
[Percentage Life Left] フィールド	ソリッドステートドライブ (SSD) に残っている書き込みサイクル数。たとえば、SSD がライフタイム中に 100 の書き込みサイクルに対応でき、15 の書き込みを完了している場合、ドライブの残りのライフのパーセンテージは 85% です。各パーセンテージ範囲は、異なる色で表されます。たとえば、75% ~ 100% の場合は緑色、1 ~ 25% の場合は赤色です。 (注) [Controller Info (コントローラ情報)] の下の [SSD - Percentage Life Left (SD - 残量 (パーセンテージ))] に、SSD の棒グラフが追加されます。
[Wear Status in Days] フィールド	SSD が書き込みサイクルを実行した日数。 SSD ベンダーによって、SSD での 1 日あたりの有限書き込み数が提示されます。その数に基づいて、SSD が動作し続ける総年数を計算できます。
[Operating Temperature] フィールド	選択した SSD が選択時点で動作しているドライブの現在の温度。
[Percentage Reserved Capacity Consumed (消費された予約済みの容量の割合)] フィールド	SSD によって消費された総容量 (そのために予約されている割合のうち)。
[Time of Last Refresh] フィールド	ドライブが最後に更新されてからの時間。

ステップ9 **[閉じる (Close)]** をクリックします。

- (注) [Storage Adapter (ストレージアダプタ)] ページで [Controller Info (コントローラ情報)] をクリックし、[Percentage LIFE LEFT (残量パーセンテージ)]、[Enable Copy back on SMART (SMART でのコピーバックの有効化)]、[Enable Copy back to SSD on SMART Error (SMART エラーでの SSD へのコピーバックの有効化)] などのコントローラ設定を表示します。

コントローラ ドライブ セキュリティの概要

自己暗号化ドライブ (SED) は、データをドライブに書き込む際にデータを暗号化し、データを読み取る前に復号するために使用されます。これにより、ドライブのデータのセキュリティが確保されます。Cisco IMC Supervisor は、この機能のためにコントローラ、物理ドライブ、および仮想ドライブの各レベルでのセキュリティの有効化をサポートしています。

コントローラ レベルのセキュリティには、リモート キー管理とローカル キー管理の 2 つのオプションがあります。リモート キー管理では、KMIP サーバからセキュリティ キー ID とセキュリティ キーが取得されます。ローカル キー管理では、セキュリティ キー ID とセキュリティ キーはユーザーが指定するか、または CIMC サーバから提案されます。これらのパラメータはドライブのデータを保護する目的で使用されます。

物理ドライブ レベルのセキュリティでは、SED ドライブをロック状態または外部ロック状態にできます。ロック状態では、このサーバでコントローラのセキュリティ キーを使用してドライブがロックされています。外部ロック状態では、別のコントローラのセキュリティ キーを使用してドライブがロックされていますが、ドライブはこのコントローラに配置されています。外部ロック状態のドライブをロック解除するには、そのコントローラのセキュリティ キーが必要です。ロック解除後には、ドライブに対して任意のセキュリティ関連の操作を実行できます。



- (注) Cisco IMC Supervisor ではローカル キー管理だけがサポートされており、リモート キー管理はサポートされていません。[コントローラ ドライブ セキュリティの詳細の表示 \(6 ページ\)](#) を参照してください。

コントローラ ドライブ セキュリティの詳細の表示

[Controller Info (コントローラ情報)]、[Physical Drives (物理ドライブ)]、および [Virtual Drives (仮想ドライブ)] でコントローラ ドライブのセキュリティの詳細を表示するには、次の手順を実行します。

始める前に

M4 ラックマウント サーバまたは UCS S3260 ストレージ サーバには SED が接続されている必要があります。

手順

- ステップ 1 [Systems] > [Inventory and Fault Status] を選択します。
- ステップ 2 [Rack Groups (ラック グループ)] を展開し、サブ ラック グループを選択します。
- ステップ 3 [Rack Servers (ラック サーバ)] をクリックします。
- ステップ 4 サーバをダブルクリックします。
- ステップ 5 [Rack Server (ラック サーバ)] ページで、[Storage Adapters (ストレージ アダプタ)] をクリックします。
- ステップ 6 選択したサーバをダブルクリックするか、[View Details (詳細の表示)] をクリックします。
- ステップ 7 [Storage Adapter (ストレージアダプタ)] ページで [Controller Info (コントローラ情報)] をクリックします。
- SSD ドライブに関する次の詳細が表示されます。

タブ	説明
[Power Cycle Count] フィールド	製造された時点からドライブの電源が再投入された回数。
[Power on Hours (電源オンの時間数)] フィールド	ドライブが「電源オン」モードにある時間の合計数。
[Percentage Life Left (残りのライフのパーセンテージ)] フィールド	ソリッドステートドライブ (SSD) に残っている書き込みサイクル数。たとえば、SSD がライフタイム中に 100 の書き込みサイクルに対応でき、15 の書き込みを完了している場合、ドライブの残りのライフのパーセンテージは 85% です。各パーセンテージ範囲は、異なる色で表されます。たとえば、75% ~ 100% の場合は緑色、1 ~ 25% の場合は赤色です。 (注) [Controller Info (コントローラ情報)] の下の [SSD - Percentage Life Left (SD - 残量 (パーセンテージ))] に、SSD の棒グラフが追加されます。
[Wear Status in Days] フィールド	SSD が書き込みサイクルを実行した日数。 SSD ベンダーによって、SSD での 1 日あたりの有限書き込み数が提示されます。その数に基づいて、SSD が動作し続ける総年数を計算できます。
[Operating Temperature (動作温度)] フィールド	選択した SSD が選択時点で動作しているドライブの現在の温度。

タブ	説明
[Percentage Reserved Capacity Consumed (消費された予約済みの容量の割合)]フィールド	SSD によって消費された総容量 (そのために予約されている割合のうち)。
[Time of Last Refresh] フィールド	ドライブが最後に更新されてからの時間。

- ステップ 8** [Storage Adapter (ストレージアダプタ)] ページで **[Physical Drives (物理ドライブ)]** をクリックします。
コントローラ名、物理ドライブ番号、ステータス、ヘルス、シリアル番号、ファームウェア、FDE 対応、FDE 有効、保護済み、ロック済み、外部ロック済みなどの詳細が表示されます。
- ステップ 9** [Storage Adapter (ストレージアダプタ)] ページで **[Virtual Drives (仮想ドライブ)]** をクリックします。
仮想ドライブ番号、名前、ステータス、ヘルス、サイズ、RAID レベル、ブートドライブ、FDE 対応、FDE 有効などの詳細が表示されます。
- ステップ 10** [送信 (Submit)] をクリックします。

ラック マウント サーバの障害の詳細の表示

問題の原因や問題解決のための推奨手順など、ラック マウント サーバの障害の詳細を表示する場合は、次の手順を実行します。

始める前に

サーバはすでに、ラック アカウントとしてラック グループに追加されています。

手順

- ステップ 1** **[Systems] > [Inventory and Fault Status]** を選択します。
- ステップ 2** **[Rack Groups (ラック グループ)]** ページで、**[Faults (障害)]** をクリックします。
- ステップ 3** リストでサーバをダブルクリックし、詳細を表示します。リストでサーバをクリックし、右端の下矢印をクリックして **[View Details (詳細の表示)]** を選択することもできます。

(注) リストからサーバを選択するまでは、右端に下向き矢印は表示されません。

ラックマウント サーバに関する次の詳細を表示できます。

タブ	説明
説明	問題の原因の要約。
推奨事項	問題を解決する手順。

ステップ 4 [閉じる (Close)] をクリックします。

ラック グループのサマリー レポート

[Inventory and Fault Status for Rack Groups (インベントリと障害のステータス)] ページには、ラック グループのリストが表示されます。[Rack Groups (ラック グループ)] でグループを選択すると、選択したラック グループのページに、次のレポートを示す [Summary (要約)] レポートが表示されます。

- [Faults] : 選択されたラック グループに対し、全体の障害の数を表します。障害の数は、[Critical]、[Major]、[Warnings]、[Minor]、[Info] などの重大度に基づいて分類されます。
- [Server Health] : サーバ全体のヘルス ステータスを表します。サーバ全体のヘルス ステータスは、[Good]、[Memory Test In Progress]、[Moderate Fault]、[Severe Fault] などの状態のいずれかになります。



(注) [Moderate Fault] と [Severe Fault] は、重大度が [Major] および [Critical] となっている障害とそれぞれ相互に関連します。しかし、サーバのヘルス ステータスは CIMC によって報告されるステータスに基づいて決定され、上記の障害の重要度対して、常に直接的にマッピングされるわけではないことに注意してください。障害のタイプや関連コンポーネントなどの他の要素がサーバ全体のヘルス ステータスに影響します。

- [Chassis Health (シャーシの状態)] : シャーシのヘルス ステータスを表します。ヘルス ステータスは、[良好]、[メモリテストが進行中です]、[中程度の障害]、[重大な障害] などの状態のいずれかになります。
- [Firmware Versions] : 選択されたラック グループに対し、そのファームウェア バージョンで管理されているサーバの全体的な数を表します。
- [Server Models] : 選択されたラック グループに対し、そのモデルで管理されているサーバの全体的な数を表します。
- [Power State] : 選択されたラック グループに対し、その電源状態で管理されているサーバの全体的な数を表します。電源の状態は [On] または [Off] のいずれかです。
- [Server Connection Status] : 選択されたラック グループに対し、その接続ステータスをもつサーバの全体的な数を表します。接続ステータスは [Success] または [Failed] のいずれかです。
- [Overview (概要)] : サーバの合計数と重大な障害の数を示します。

サーバ障害に関する電子メール アラート ルールの追加

1つ以上の電子メールルールを作成できます。各ルールでは、アラートの指定した条件に一致する障害が一致すると、電子メールアラートが送信されます。このような障害に関する電子メールアラートを受信するには、次の手順を実行します。

手順

ステップ 1 [Administration] > [System] を選択します。

ステップ 2 [Email Alert Rules (電子メール アラート ルール)] をクリックします。

(注) [Email Alert Rules] テーブルには、電子メールアラートのルール名、アラート範囲、アラートルールで選択されたサーバとサーバグループなどのアラートルールの詳細が表示されます。

ステップ 3 [Add] をクリックします。

ステップ 4 [Add Email Alert Rule (電子メール アラート ルールの追加)] ページで、次のフィールドに入力します。

フィールド	説明
[名前 (Name)]	ルールの一意の名前を入力します。
[Alert Scope]	いずれかのサーバで検出された新しい障害に関するすべてのシステムレベルアラートを受信するには、[System] を選択します。指定されたラックグループに含まれるサーバで検出された新しい障害に関する電子メールアラートを受信するには、[ServerGroup] を選択します。指定されたサーバで検出された新しい障害に関する電子メールアラートを受信するには、[Server (サーバ)] を選択します。
サーバグループ	アラートレベルで [ServerGroup] を選択した場合、このオプションが表示されます。 <ol style="list-style-type: none"> [Select] をクリックします。 [Select] ダイアログボックスで1つ以上のラックサーバグループにチェックマークを付けて、[Select] をクリックします。電子メールアラートの送信対象となる選択されたサーバグループの名前が、このフィールドの横にリストされます。

フィールド	説明
サーバ	<p>アラート レベルで [Server] を選択した場合、このオプションが表示されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Select] をクリックします。 [Select] ダイアログボックスで 1 つ以上のサーバにチェックマークを付けて、[Select] をクリックします。電子メールアラートの送信対象となる選択されたサーバ名が、このフィールドの横にリストされます。
[Email Addresses] フィールド	<p>電子メールアラートの対象受信者の電子メールアドレス。複数の電子メールアドレスをカンマで区切って入力できます。</p>
Severity	<p>[Email Addresses] フィールドに設定された電子メールアドレスに電子メールアラートを送信する対象となる障害重大度レベルを選択するには、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> [Select... (選択)] をクリックします。 リストから 1 つ以上の重大度レベルにチェックマークを付けて、[Select] をクリックします。 <p>(注) 選択した値が [Select...] ボタンの横に表示されます。</p>
[Enable Alert] チェックボックス	<p>このチェックボックスをオンにして、設定された電子メールアドレスへの電子メールアラートを有効にします。</p>
[Send alert for all fault every 24 hours (24 時間ごとにすべての障害に関するアラートを送信する)] チェックボックス	<p>24 時間ごとに電子メールアラートを送信するには、このチェックボックスをオンにします。この電子メールアラートには、設定されている電子メールアラートルールに基づいて、アクティブおよびオープンなすべての障害が含まれます。</p>

- (注)
- 電子メール アラートのルールを修正と削除ができます。[Edit] および [Delete] オプションは、ルールを選択した場合にのみ表示されます。[Edit] をクリックし、表示されているフィールドを必要に応じて変更するか、[Delete] をクリックして、削除することを確認します。
 - 複数のルールを同時に選択して [Delete] をクリックすると、それらを削除できます。
 - 送信される電子メールアラートの数は、作成したルールの数に基づいています。
 - 1.0 または 1.0.0.1 でシステム レベルルールが存在する場合、1.1 にアップグレードすると、デフォルトのルールの名前が [system-default] として追加されたことを確認できます。このグループの [Alert Level] フィールドを変更することはできませんが、このシステム レベルルールを削除することは可能です。
-